

令和元年 12 月 20 日

報道関係者各位

山県市

**～県内最大級規模の農園を拠点とした新会社との連携～**  
**山県市と大日コンサルタント(株)・西濃建設(株)・(株)大雅による**  
**農業を核とした地域活性化に関する PPP 協定締結式**  
**12 月 26 日 11 時～ 山県市役所公室**

山県市（市長 林 宏優 以下当市）は、県内最大級規模の農園を活用した地域活性化に関する相互協力と円滑な推進を図る目的で、当市内に設立予定の新会社に出資する大日コンサルタント株式会社、西濃建設株式会社、株式会社大雅の三社（以下「新会社」と）PPP 協定締結式を行います。

※PPP(官民連携) : Public Private Partnership の略

今回協定を締結する三社が設立する特別目的会社の新会社は、※岐阜県最大級規模の農園を中心に「交流人口の拡大」「農業の活性化」「地域との連携」「地域ブランド・認知度の向上」「雇用・産業・経済効果」などによるエリアマネジメント型の農業の魅力を活用した地域活性化を目指す民間主導の新会社です。 ※県内最大級：いちごは隣接する農園「雅」と農園面積を合算した場合、ぶどうは高級品種限定

○協定締結式概要

日時	12 月 26 日（木）11 時～
場所	山県市役所公室（市役所 2 階）
主な出席者	山県市長 林 宏優 出資会社 大日コンサルタント株式会社 代表取締役社長 後藤 隆 西濃建設株式会社 代表取締役社長 笹田 哲夫 株式会社大雅 代表取締役 江崎 雅教
式次第	1.出席者紹介 2.概要説明 3.協定書署名調印 4.写真撮影 5.山県市長 林 宏優 あいさつ 6.出資会社あいさつ 大日コンサルタント株式会社 代表取締役社長 後藤 隆 西濃建設株式会社 代表取締役社長 笹田 哲夫 株式会社大雅 代表取締役 江崎 雅教 7.質疑応答
主な協定内容	1. 目的 2. 市との連携内容 3. 事業者の責務 4. 市内諸団体等との連携 5. 近隣対策 など

【本件に関する報道関係者からのお問い合わせ】

山県市農林畜産課 村橋

Tel : 0581-22-6830 Fax : 0581-22-2118

Mail : norin@city.gifu-yamagata.lg.jp

○事業概要

新会社名	アトレファームジャパン株式会社
本社所在地	山県市出戸
農園面積	約 3.5ha
主な農作物	いちご、高級ぶどう など
主な事業内容 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆農作物の生産、加工、販売</li> <li>◆体験農園の運営 (いちご、ぶどう、ブルーベリー、さつまいもなど)</li> <li>◆農作物を原材料とする加工食品の製造、販売</li> <li>◆農作物や加工食品を利用した飲食施設等の運営</li> <li>◆太陽光発電事業による売電事業</li> <li>◆その他</li> </ul>
オープン予定日	2020年12月 (予定)

三社は相互に有する技術・実績を集結した新会社を当市内に設立し拠点置くことで、地域に根ざした企業であるとともに、スマート農業の導入や Global G.A.P 取得 (予定)、観光の拠点化、隣接する直売所「山県市てんこもり (市の設置した農産物直売施設)」との積極的な連携を掲げています。

さらには、農園関連施設の屋根に太陽光発電システムを導入し農業界では先駆的な「SDGs」にもこ

わったこれからの時代の農業ビジネスへの取り組みを掲げており、先駆的なビジネススタイルの導入により当市の農業振興と地域活性化の主体的な担い手として活躍が期待されます。

当市では、農業従事者および農産物出荷者の高齢化や減少により農業経営基盤の活力低下が課題として顕在化している中、民間発案型の新会社との相互協力は、市が抱える農業面での課題を克服するとともに、地域活性化に資する実効性の高い取り組みであると考えています。

また、本年度内に東海環状自動車道山県インターチェンジの開通が予定されており「人・もの・食文化」を軸とした都市部との交流による地域活性化も大いに期待されます。

そのような背景の中、当市では、官民連携により「好機」を最大限に活かすため新会社と協同し当市として初となる農業を核とした地域活性化に関する PPP 協定締結式を実施します。

**新会社の行う事業の先駆性**

- ①全国的にも稀な農地を核とした民間発案型の PPP 協定の締結
- ②全国的に注目を浴びているスマート農業の導入や就農・既存農家の支援
- ③岐阜県内での取得事例の少ない体験農園での Global G.A.P 取得 (予定)

**【新会社が目指すべき地域活性化の姿】**

**ポイント①【県内最大級の農園を核とした地域ブランドの創出】**

- ◆ 約 3.5ha の農地活用により、県内最大級規模のいちご・高級ぶどう等の栽培・収穫体験、直売や六次加工の製造・販売、ハイクオリティな飲食店設置等による農業の魅力向上
- ◆ 「山県市」「農業」の好イメージを付与することによる地域ブランド・認知度の向上

**ポイント②【交流人口の拡大による賑わいの創出】**

- ◆ 収穫体験による「コト消費」や地域内周遊による「着地型観光」を活用した交流人口の拡大

**ポイント③【周辺施設との連携による相乗効果の発揮】**

- ◆ 山県市てんこもり等の周辺施設との連携による地域内消費の拡大と集客力のアップ

**ポイント④【新規就農者・既存農家の支援による就農人口の拡大】**

- ◆ 農業研修可能な最新スマート農業の導入、国際品質規格「Global G.A.P.取得 (予定)」による、新規・既存農業者を対象にした支援、研修、育成等による支援や、地域内への就労の場の創出